

読者のお便り 一

我が家の太陽光発電 その後

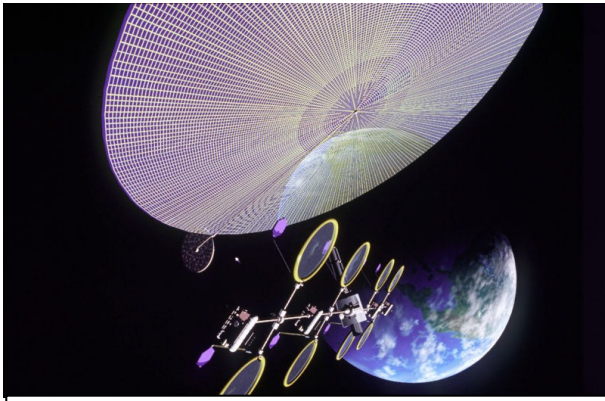
茅ヶ崎市 野口幹夫

昨年7月に設置した我が家の3.5KWの太陽光発電装置は順調に発電をしている。運転開始にともなった新しい二つの電力計は今日まで総発電量2649KWH それに対してこの間の総使用電力2201KWHを指している。わずか20㎡たらずのソーラーパネルから発電量は鬱陶しい冬の3ヶ月も使用量を上回った。この10箇月間に計448KWHの余剰電力を送電線を通じて東京電力にお返しした事になっている。

我が家が湘南の地で屋根は南面しているという好条件であったからこの成績だが、ここでさえ雨の日ほとんど発電量が0だから、雪国ではやはり太陽光発電は適さない。旅行すると車窓から見える屋根に目が行く。松本あたりでソーラーが屋根に乗っていると健気だな、頑張っつてねと声援を送りたくなるし、逆に太陽の恵に溢れた南国でくろくろとした屋根が続くのを見るとも

つたいないとも思う。雪国でない限り南面する屋根ならば我が家の例からみて投資のリターンは年1割を超えるから、屋根面積を貸して発電するビジネスがもつと伸びればと思う。最近のチラシでみる設置費用は昨年より10%位値下がりした。この量産コスト低下が、国策支援策の効果であろう。

宇宙開発研究機構では、宇宙の静止衛星軌道上にソーラーパネルのせ「宇宙太陽光発電所」とする構想が研究されている。宇宙からの電



写真は【宇宙太陽光発電所】のイメージ

力をマイクロ波やレーザー光で地上に送り受電施設でうけるといいう構想で2030年代の実用化を目標にして基礎的な研究実験が進んでいる。この構想は経済的に無意味と反対している私の友人の試算も知っているが、太陽光発電の弱点である発電量の変動が、宇宙からならば解決する。安定電力エネルギーとなれば、原子力に替わる代替エネルギーとなりうる。まだ夢に近いが、無限に進歩するこの領域の若い研究者の研究意欲を削ぎたくない。

原子力発電依存脱却のためには、人類はいかなる努力も惜しんではならない。

読者のお便り 二

お花見

大阪市 前田由美子

今回は農業を忘れ 大阪の造幣局の通り抜けに行ってきました。淀川の両岸には桜の宮と呼ばれるほど染井吉野が咲く所があり、終わるころに通抜けがあり、明治16年「局員だけの花見ではもったいない」ということで解放されました。

以来 129年、5603に129品種 354本が植えられています。

桜はピンク色だと思いましたが白 ピンク 黄 薄緑の花びらが有り感動です。

「今年の花」は小手毬です。

珍しい品種として 大手毬 紅手毬 養老桜 二度桜があります。

4月17日〜23日まで解放され順々に花が咲き1週間楽しむことが出来ます。

